

大震災における釜石市の教訓から

「危機への対応」

～人的被害をゼロに!～

2023年は、福井地震から75年、関東大震災から100年。過去の災害を振り返り、地震への備えなどについて皆さんとともに考える機会にします。

講師

佐々木 守 氏

元釜石市防災課長



東日本大震災で被災した岩手県釜石市の当時の防災課長。語り部として全国各地で講演。

釜石市は岩手県の沿岸部に位置し、震災では震度6弱の揺れを観測。888人が亡くなり、市内にあった住家の約29%に当たる4700戸あまりが被災した。

同市は明治から昭和にかけて2度の大津波に見舞われた経験から防災に力を入れてきたが、「大人たちの間に過去の高さを超える津波は来ないだろうという先入観があった」と指摘。自治体が災害に備えて作成している地域防災計画について、「災害時は想定外の事態が次々と起こる。計画が役に立たないことも覚悟しておくべきだ」と話す。

日時

2023年8月22日(火)18:30～

会場

市民プラザたけふ 多目的ホール
(アルプラザ武生4階)
福井県越前市府中一丁目11-2

参加費
無料
予約不要

※発熱、咳など風邪の症状がある方や全身倦怠感など体調がすぐれない方のご来場はお控えください。

※車で来場される場合は、駅北パーキング(アルプラザ武生店隣接駐車場)へ駐車し、発行券を会場受付へ提示してください。

主催:NPO法人丹南市民自治研究センター

問合せ先:0778-23-8708 <http://tannan-shimin-jichi.hatenablog.jp>

